津別町多目的活動センター さんさん館

TSUBETSU Multipurpose Activity Center "SANSANKAN"

北海道津別町は、農業・林業、木材加工を主産業とした町である。
津別町多目的センターさんさん館は、「まちづくり構想プロジェクト」に位置づけられ、まちづくりに関する情報や町内外を結ぶ交流を通し、市街地の活性化等の役割を担う施設として計画された。計画を進めるうえで運営協議会が設立され、農業・林業・商業・観光の各団体と協議を行い、各団体の活動が見える わかりやすい施設とすることを目指した。

さんさん館は、まちの駅機能を持ち、更にイベント活動を充実させるスペースと設備を持っている。中庭を囲むコの字型の計画は空間を機能別に配置しているが、多目的ホールを中心に一体の空間としている。中庭はイベントの中心スペースとして、四季を通して賑わうまちの広場としてパーキングスペースも含めて広く利用できるように計画した。又、中庭の深い庇は内部と外部を緩やかにつなぐ、屋根のある外として活動の巾を広げる。きっかけをつくる雁木空間とした。

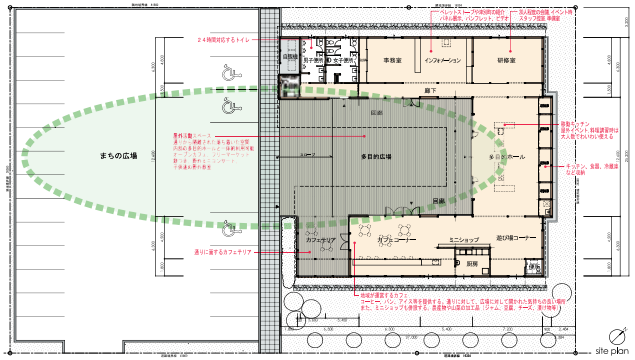
CAFE：床、壁、天井、カウンター、家具全て地元加工品。

多目的ホール：床に給排水、電源を設備し料理パフォーマンスの場に。

建築はシンプルに造り、形態を表現するのではなく、シンプルな架構とリズム、木のまち津別にふさわしい木壁により、気持ち良い健康的な空間の創出を意図した。

構造材は道産カラマツ集成材を使用し同一部材を同一ピッチで繰り返し施工することで、建方時間の短縮と施工精度を高めている。内部仕上は壁・天井共、地元工場の製品である針葉樹合板を使用している。又、家具類は、合板を更に積層し、カウンター・展示棚・サイン等に使用し、全て地元の加工場で製作した。外部仕上はカラマツの垂木材を縦張りとし、板材とは異なる質量感が道東の厳しい気候条件の中で安心感を与えている。

今までの木造と異なる合理性とフラットルーフのデザイン、そして地元の技術力は"Made in 津別"として、これからの地域木造のモデルになることを意図した。

唐松〜垂木を使用した外壁

地元合板を更に積層し製作した展示棚、サイン